

(個別研修) 菊地 陽子

- 研修テーマ：**
- ・ 地域包括ケアシステム、チームケアでのケアマネジメント手法
  - ・ 認知症、障害者を含む高齢者を取り巻く環境と自己決定の尊重
  - ・ ノーマリゼーションの思想に基づいた援助について学ぶ

研修先：ユマニチュード認定施設 RÉSIDENCE DE LA CITÉ VERTE (フランス パリ)

研修日：5月21～26日

内 容：ユマニチュード認定施設を訪問し、認知症高齢者に対するコミュニケーションの技法とユマニチュードの5つのステップを学ぶ。

フランスのユマニチュード協会の訪問。



施設看板

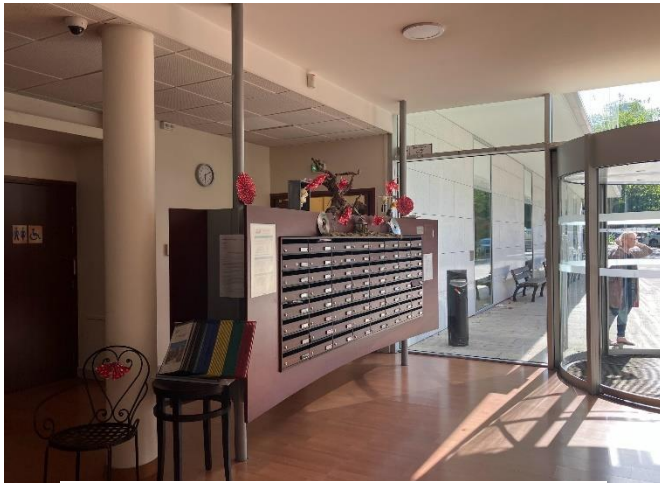


施設外観

パリ郊外にある緑豊かな Sucy-en-Brie にある入居定員 110 名の高齢者施設。2006 年にユマニチュードのトレーニングインフォメーションを始め、2020 年にユマニチュードのラベルを取得している。新人スタッフのために毎年トレーニングを行っている。ラベルの評価基準は 300 以上の生活の質ポイントに分類され、5 年間有効。ラベルチェック時は 2 日間に渡り夜間も含めて 24 時間、2～3 人が施設内全てをチェックする。施設に勤務する事務員や キッチンスタッフ、洗濯室担当も含めて全てのスタッフが対象となる。入居申し込みがあった場合は認知症に伴いどのような症状があるかを確認し、本人、家族と面談を行い意思確認をする。家族より本人にプレッシャーのかからないように家族と本人別室で面談を行うこともあるとのこと。本人が入居を望まない場合は家族が希望しても入居許可は出していないとのことだった。

ユマニチュードの4つの柱、見る、話す、触れる、立つを大切にしており入居 110 名に対し立位の取れない人は 4 名。入居時立つことができなかった方も立つことができるようになったケースもあるとのことだった。ユマニチュードの意識を持ち続けることは簡単ではないが、常に復習し『どうしてこのようにしているのか』なぜ、どうやってを説明する場を設けている。ユマニチュードケアを導入したことで入居者の ADL 向上、スタッフの仕事に対するモチベーションにも繋がり、心身のバランスにも良い影響を与えているとのことだった。

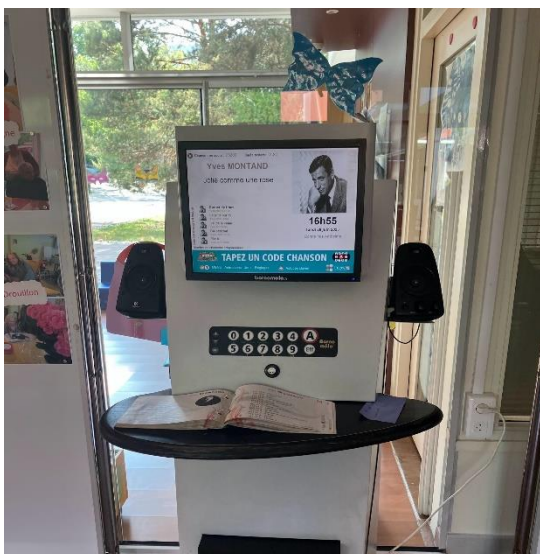
また認知症により攻撃的な面がある方は小さなグループで独りにさせない対応を取っていた。認知症のある方が居心地良く、安心して過ごせる環境への配慮とスタッフが同じ価値観で生活を支えていることが感じられた。



玄関先には入居者のポストがある



玄関に入って左手に保育スペースがある



好きな音楽が聴けるよう各階に設置されている



ダイニングルームから見た中庭。公道との境にフェンスがなく自由に立ち入れる





ダイニングではなるべく椅子に座り変えて、レストランで食事するような環境を整えている。